

# 多高通信

第193号 令和3年11月26日発行

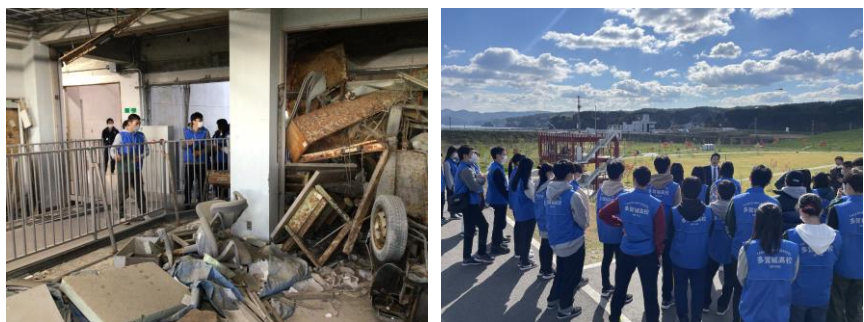


さどく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 災害科学科2年 SS野外実習

### 栗駒・気仙沼巡検

10月27日から29日の3日間、災害科学科2年生がSSエススキルアップ研修Ⅱ「栗駒・気仙沼巡検」として、岩手宮城内陸地震の被災地である栗原市・一関市に加え、気仙沼市・南三陸町で東日本大震災に対する理解を深めました。これまで1泊2日で行ってきた研修を2泊3日に拡大し、東日本大震災からの復興について、その地域がこれまで培ってきた文化や生活を重んじるべきであること、そして住民に寄り添った合意形成が復興には極めて重要であることを学んできました。



### ■2年7組 伊藤妃織(高崎中出身)

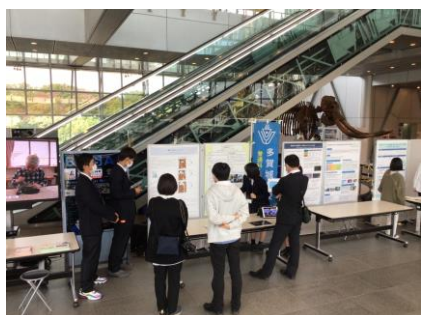
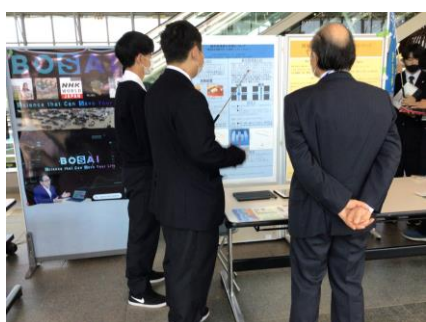
気仙沼や南三陸での東日本大震災での被害について私たちはどれほど知っていたら。テレビや資料などで見て聞いて何を感じていただろう。それでどのくらいの事実を知ることができただろう。今回は実際に被害にあった場所を見てきてテレビや資料などでは感じることのできない、その土地でしか感じ取れないことを感じることができた。それは言葉では言い表せない。その土地に踏み込んで、自分の目で見て、はじめてこの土地でこんな被害が出たのだと、この土地にいた人たちの思いや叫びが体だけでなく、心に響いてきた。東日本大震災での被害がそのまま残されている高野会館に入らせていた

き、震災当時津波が押し寄せてくる恐怖は私には到底わかることではないが、本当に怖くて逃げ出したい、死にたいと思うほどだろうと感じた。その日のまま残されたタイムカードは当時ここにいた人が生きていた証であり、心が締め付けられた。高野会館で語り部の方がおっしゃっていた「自分のことは自分で守る。自分ができるところで守る。自分を犠牲にしては誰も守れない。」ということとはあたりまえのようだが実際災害が起きると、パニックになり、守れた自分の命を犠牲にしてしまうかもしれない。それぞれが自分のことを守ることができれば、多くの命を救うことにも繋がるだろうと思う。また、「人間は伝え続けたいと忘れる。原点を忘れずに伝え続ける」という言葉に、伝え続けることの大切さを改めて感じさせられた。

皆さん商店街の防災庁舎で「生きるのを最後まで諦めなかった、必死に生きようとしていたんだよ」という言葉を聞いて、思わず涙が溢れそうになった。生きたくても生きられずに亡くなってしまった人はたくさんいたという、あたりまえでも改めて自分の無力さを感じた。私は最後の振り返りで「伝承」をテーマとして発表した。一度実際に建物やものを見ると、当時のことを考えその瞬間は記憶に残るが、時間が経てば人間は忘れてしまう。私たちは震災を知る世代だが、今後は知らない世代がどんどん増えていく。これからは私たちが災害での教訓を未来に伝えていかなくてはならない。当時のことを忘れず、これから起こる災害に備え、被害が大きくならぬように、1人でも多くの命を救えるように貢献できるようにになりたい。【※レポートよりそのまま抜粋】

## アースサイエンスウィーク

### ミ仙台・高校生発表



10月30日・31日の2日間、スリーエム仙台市科学館において、アースサイエンスウィークミ仙台の高校生発表会が行われ、災害科学科2年生19名が参加しました。これまで課題研究で取り組んできたそ

の成果を発表する貴重な機会を得ると同時に、地学分野の研究者や他校生と交流し、研究内容における新たな課題を発見したり、興味を引くポスター作成のヒントを得たりすることができました。

### ■2年7組 佐々木拓夢(田子中出身)

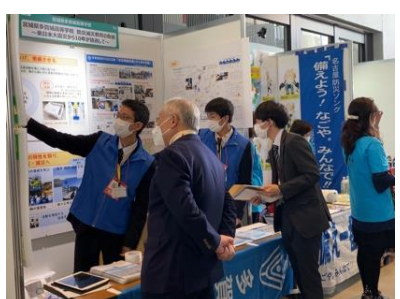
初めてのポスター発表であり、慣れない中での発表でしたが、回数をこなしていく度に段々慣れてきて、その発表の中で改善点も見つかるなど、とても良い経験になりました。また、質疑応答の際に自分たちが予想もしないような質問だったり、アドバイスをいただいたりしたことで、次の発表の機会にはもっと良い発表ができるような気がします。今後は研究内容を更に発展させていきたいです。

### ■2年7組 淡谷倅(田子中出身)

今回の研究発表を通して、自分たちの発表はもっと良くしていけると思いました。4回くらいポスター発表を行ったのですが、全ての発表で全く違う質問やアドバイスをいただき、その質問にしっかりと答えることができました。この経験を今後の研究につなげ、研究を深めてきちんとした発表ができるようにしたいです。

## ぼつぱいんぐたう2021

11月6日・7日の2日間、



ぼつぱいんぐたう2021に災害科学科2年生4名が出場してきました。全国から非常に精力的かつ先進的に防災・減災・復興に取り組んでいる研究機関や官公庁省、NPOなどの団体が集まり、それぞれの活動を報告し学ぶことのできる場です。本校は唯一の高校生参加者として発表してきました。研究者や企業を中心とする方々に加え、多くの一般の方にも本校の取組を聞いていただき、高校生だからこそのできること・伝えられることを生徒たちが精一杯伝え、対話を通して深く考える機会となりました。各プレゼンブースも参考になる取組ばかりで、改めて防災・減災・復興への取組を多くの人々とともに進めていくこと、さらに広げていくことの重要性を認識させられました。

また、2日目には本校の体操服を作ってくれている株式会社明石スクールユニフォームカンパニーさんのセツシヨウ『子どもが夢中になる防災教育』主體的・対話的で深い学びの具体的展開』に生徒2名がパネラーとして登壇しました。これまでの学びや災害科学科に入った理由などを説明し、榊原隆様(上記会社第二販売部長)、前林清和教授(神戸学院大学)や諏訪清二先生(防災教育学会会長)とともに、防災教育を実際に受けている立場から対談を行いました。多くの方々から聞いてくれて、堂々と自分たちの考えを伝え、ディスカッションを行うことができました。

### ■2年7組 本田このみ(多賀城中出身)

普段なかなか会うことができないような、災害に携わる方々に自分たちの取組を伝えることができ嬉しかったです。2日目のセツシヨウでは、自分の意思をはっきりと伝えることができ、それに対して登壇者の方々からしっかりと目を見て聞いてくださったし、様々な視点から意見を頂くことができました。自分の考えをもっと深めて行動につなげていきたいと強く思いました。2日間の学びをこれからの課題研究や学習、進路に活かし、繋げていきたいと思っています。

## 大妻中野中学校高等学校 意見交換会

### 中学生高校生ができる

### 防災・減災アクション

11月13日、大妻中野中学校・高等学校の中学2年生から高校2年生約20名によるフロンティアプロジェクトチームとのオンライン交流会を行いました。



防災・減災に関する研究発表を通して、誰一人取り残さない、中学生・高校生ができる防災・減災アクションについて考えるというものです。

### ■1年7組 戸田桃羽(岩切中出身)

大妻中野の皆さんは、積極的に自分の意見を述べたり、自分から進んで発表したいと言ったりする人が多くて驚きました。他校の人と話し合う機会はなかなかないので、とても良い経験になったと思います。またこのような機会があれば参加したいです。